WEEKLY　2025－2026

Rotary 伊那ロータリークラブ

事務所　伊那市西町5016-2　℡(72)0077　例会日　毎週木曜日　会場くぬぎの杜　℡(78)1121
会長 小河節郎　幹事 鈴木正比古　会報委員長 八木択真　第３０８２回 例会2025.11.27　No.1682

UNITE FOR GOOD

Rotary 第2600地区　よいことのために手を取りあおう

ソ　ン　グ　君が代・奉仕の理想

四つのテスト　職業・社会奉仕委員会

会 長 談 話　小河節郎会長

11月はいろいろな行事がありました。11月9日は「中尾歌舞伎」11月16日は「地区大会」があり、先月の「ガバナー公式訪問」と、会員の皆さんには大変ご協力をいただきました。ありがとうございました。

さて、「今日は働きたい改革」についてお話をさせていただきます。

日本の就業者の労働時間が、着実に短くなっている。平均の週間就業時間は、2000年に42.7時間だったものが、昨年2024年には36.3時間になっており、この四半世紀で15%減という水準にあります。

これは「労働投入量」（平均就業時間×就業者数）はGDP（国内総生産）の一つであるが、「日本人が働かなくなったことが日本経済を弱くした」とも言われています。この要因として、「戦後労働法70年ぶりの大改革といわれた」2019年4月施工の働き方改革関連法によるところが大きいといわれています。

労働基準法が40年ぶりに大改正される見通しです。副業やテレワーク、フリーランスなどの多様化が進む中で、このことにより労使関係が根本から見直されることになります。

労働投入量は前述したとおり、平均就業時間×就業者数で表しますが、2000年から2024年の24年間では、就業者数は6000から6700へと増えていますが、労働投入量は27万から23万へと大きく減少しています。就業者数がふえたのは、パート、アルバイトなどの非正規労働者が増えたことが要因であり、労働投入量が減ったのは労働時間が減ったことによるものです。

高市政権は「労働時間規制の緩和方針」を打ち出しました。いわゆる「働きたい改革」これはお金を稼ぎたいのに残業ができない人が、副業のため、アルバイトなどの慣れない職業につき、体を壊す恐れがあるからです。事実私の知り合いでも、「うちの会社はブラックです。稼ぎたいのに稼がしてくれない。就業時間後1分でも職場にいてはいけないと、専業の管理者から追いだされるんですよ。仕事は間にあわないので、その分は家でするのでただ働きです。」と言っていました。

日本のＧＤＰは国土・人口とも日本より小さなドイツに抜かれ、まもなくインドにも抜かれ世界第5位になろうとしています。「働きたいのに働けない」法律は誰のためにあるのでしょうか?

誕　生　祝

山田　益　山崎秀亮

結婚記念日祝

塚越　寛　宮下　裕　唐木一平
平澤泰斗　荒木康雄　鈴木正比古

在　籍　祝

大石ひとみ(9)

幹 事 報 告　別紙をご覧下さい

理事会報告概要

1.11月のプログラム 2.慶弔見舞 3.年末家族会について

委員会報告【ロータリーの友】11月号紹介

ロータリー財団月間　本郷一博副会長
横組み P2～RI会長メッセージ「ロータリー財団月間を祝う11月は、寄付を行うだけでなく、その理由について考えていただきたい。また、私たちの寄付は、どんな困難があろうともロータリーの活動は継続していくという宣言である」と述べている。P5～「インターアクター 未来への羅針盤」大阪・関西万博テーマウイーク「青少年の提言」で、7つのインターアクトクラブが発表を行った様子が紹介されている。**縦組み** P2～㈱チームボックス代表取締役中竹竜二氏による「これからの時代に求められるリーダーの在り方」「子どもは親の言うことはやらないが、親がやっていることはやる。部下に弱さをさらけ出させるより、自分がさらけ出

す方がよい」という言葉が印象的。

出 席 報 告 会員数 50 名　内出席免除者 16 名
出席者 24 名　事前メーキャップ0名　出席率 63.15%

ニコニコボックス

・鈴木正比古　中尾歌舞伎ロータリー特別公演が無事終了しました。
・藤澤秀敬・藤澤洋二　I.B 自動車工業の新工場の起工式を行いました。
・大石ひとみ　認知症サポーター研修を行い、80 名の新しいサポーターが誕生しました。宮田では高校生以下 800 名の見守りがあります。
・唐澤洋祐　中尾歌舞伎に役者として参加させていただき、ありがとうございました。
・ゴルフ部上位入賞者

ラッキー賞
出澤英則　小河節郎
菅　靖世　本郷一博
山崎秀亮　唐澤洋祐
中川博司

卓　　話　米山奨学生　金　起煥さん

「国際交流と農学の学び ～ソウル大学での 4 か月間～」 皆さん、こんにちは。本日は、今年の 3 月から 6 月までの約 4 か月間、韓国・ソウル大学での留学経験についてお話しさせていただきます。

私は現在、日本の大学で蔬菜園芸、つまり野菜園芸学を専攻しています。植物の栽培や施設園芸、将来的な農業のあり方などを学んでおり、その一環としてソウル大学の 植物生産科学部に交換留学をしてきました。韓国の大学は 3 月に新学期が始まり、6 月 には前期が終了して夏休みに入りますので、ちょうどその一学期間をソウルで過ごした形になります。1. 授業について 留学中に受講した授業の中で特に印象に残っているのは、「蔬菜学」と「垂直農業」の二つの授業です。まず蔬菜学の授業についてお話しします。これはソウル大学の学生にとって必修の授業であり、基礎的な内容から応用まで幅広く扱うものでした。日本で学んでいる内容と重なる部分もありましたが、韓国の農業事情や栽培方法を交えた講義で、新しい視点を得ることができました。特に印象的だったのは、大学の農場や研究施設の見学です。実際に教授や大学院生が行っている最新の研究を間近で見ることができ、教室で学んだ理論がどのように研究や現場に結びついているのかを知ることができました。 また、植物工場のような最新設備の見学もあり、実際の現場を通じて理解が一層深まりました。 次に、垂直農業の授業についてです。垂直農業とは、植物工場のような施設で、人工光や環境制御を活用して作物を栽培するシステムを指します。この授業では、植物工場の歴史や種類といった基礎的な内容から始まり、現在韓国で実際に行われている事例や、世界的な動向まで幅広く学ぶことができました。授業中にはディスカッションの時間もあり、「未来の農業はどのように持続可能であるべきか」というテーマで学生同士が意見を交わしました。日本と韓国の施設園芸の特徴を比較することで、私自身も農業の未来について考えるきっかけとなりました。2. 寮生活と交流 次に、留学生活についてです。私は韓国出身ですが、実家はソウル大学からかなり離れているため、大学の寮に住むことを選びました。寮生活では、今年入学した新入生と同じ部屋になり、年下の学生と交流する良い機会になりました。また、寮には様々な専攻の学生が集まっているため、農学だけでなく工学や経済学といった異なる分野の話も聞くことができ、学問の幅を広げることができました。さらに、同じ交換留学生としてアメリカから来ていた学生とも親しくなりました。お互いに韓国語や英語を交えながら交流し、文化の違いを楽しむことができました。例えば、食堂で韓国料理を一緒に食べながらアメリカの食文化について話したり、休日 に市内を観光して韓国の伝統文化を紹介したりしました。このように授業以外の場でも学びがあり、多文化的な交流が私にとって大きな財産になりました。3. 留学全体を振り返って 今回の留学は、私にとって大学 4 年生の前期という非常に忙しい時期にあたりました。 そのため、当初は本当に行くべきか迷いもありましたが、今振り返ってみると、あの時間は人生の中でとても価値ある時間でした。ソウル大学での授業を通じて、農学に関する知識を深められただけでなく、韓国や海外からの学生と交流することで、将来の研究や仕事に役立つ国際的な感覚を養うことができました。また、寮での共同生活を通じて、人との関わり方や異なる価値観を尊重する姿勢も学ぶことができました。

今回の経験は、私が今後、農業研究を続けていく上で大きな力になると確信しています。そして、将来的にはここで学んだ知識や経験を社会に還元し、持続可能な農業の発展に貢献していきたいと考えています。